

■ アングル ここに菁々寮在りき	表 2
■ 『稲穂』第10号の発刊に当って 西村清一	2
■ 随想 日本人と漢字 林 史典	4
■ 随想 山岳班OB、ヒマラヤへ 北城節雄	8
■ 随想 坂井周平(中43回)という人物 八十歳からの親交と最後の書簡 稲垣隆俊	15
■ 特別寄稿 カイコを探し求めデカン高原から シルクロードを西へ 中田 徹	19
■ 随想 明治の豪商「天下の糸平」 横浜につながる不思議な糸 牧内良平	25
■ 随想 世界市場を制覇した中学時代の幾何学 後藤 正	30
■ 随想 晩秋に燃えるベニマンサク 小澤 尚	36
■ 写真でみるふるさと南信州 喬木村／平谷村	41
■ 『稲穂』インタビュー／建築家・北川原 温さんに聞く 建築や都市は人に夢と希望を与えるものでありたい	43
■ リレー随想 鳩少年よ、帰還せよ 明神恵里	49
■ 随想 きき酒と句会のコラボレーション 加藤篤士	53
■ 報告 小さな村の大きな挑戦 伊藤喜平	56
■ フレッシュトーク 大沢朗人／長坂明子	60
■ 平成24年度在京飯田高校同窓会講演から 世界に発信する飯田のまちづくり	62
■ 随想 『地蔵になった男』の映像を観て 大原 直	69
■ 在京飯田高校同窓会のご案内	72
■ 随想 六十年の歩みを振り返って 小椋貞夫	73
■ 各期同期会の活動状況	77
■ 今月の表紙画家	87
■ 編集後記	88

「稲穂」とうすい
昭和十六年(十八年)に飯田中学で刊行され
ていた格調高い「稲穂學報」に因んで……。



「祭」

表紙作品

左／「遊時かおる」(900^ミ×1620^ミ)
中／「萌・綾の里」(420^ミ×530^ミ)
右／「飾 その八」(275^ミ×220^ミ)
●ささぎ・としひこ

漆そのものの質を浮かび上がらせること。
感じとり漆の表情にさまざまな言葉をも
感じたいと摸索しています。具体的な形や
物の表出を目的とした表現とか、器物に
漆を塗ることからは離れようと……。

題字「稲穂」 高田墨山(書高7回)